

野田中学校の人権教育

入間市立野田中学校

1 はじめに

本校は、西武中学校から分離し、平成2年に開校したが、令和7年に西武中学校と統合し開校35年の歴史を閉じる。生徒のほとんどは近隣の西武小学校から入学し、9年間変わらぬ人間関係で過ごしている。保護者・地域は以前から教育に関心が高く、学校の教育活動に協力的である。子どもたちが変化の激しい未来社会を生き抜いていく力を育成するために、生徒同士で協働し、探求していく「学び合い」について学校研究として取り組んでいる。



2 本校の人権教育計画について

(1) 学校教育目標

自主・自ら目標を立て行動する
自立・他者と適切に共存できる
貢献・他者の力になる

(2) 目指す学校像

○学び合い 高め合い 鍛え合える 学校
※一人が成長するのではなく、全体が伸びていく学校を目指す。
※生徒だけでなく、教職員もこの意識を持つ。

(3) 目指す生徒像

○自ら目標を立て行動できる生徒
○他者と適切に共存できる生徒
○他者の力になれる生徒

(4) 人権教育目標

「人権問題を正しく理解し、人権感覚を身に付け、様々な人権課題を解決しようとする生徒の育成」

3 本年度の取組

(1) 人権週間

① 第1回人権週間 ～人権作文の取組～

○目的

- ・生徒の人権意識を高め、あらゆる差別をなくしていこうとする考え方や行動を身に付ける。
- ・基本的人権について理解し、人権問題への正しい理解を図る。
- ・他者への理解を共有できる豊かな人間性を養い、人権意識を育む。

○取り組み方法

- ・各学年で学活・総合・道徳などの時間に1時間の集中指導を行い、2時間目に作文・標語の作成に取り組む。

○集中指導で取り組む具体的内容およびテーマについて

ア. 全校共通…人権について、各種人権問題について

朝読書の時間に、人権に関するDVD(社会教育課貸出)を視聴する。

イ. 各学年の取り組み

1学年:日常における人権問題やいじめ問題について

- ・子どもの人権
- ・インターネットを悪用した人権侵害
- ・高齢者の人権
- ・障がい者を理由とする偏見や差別 等

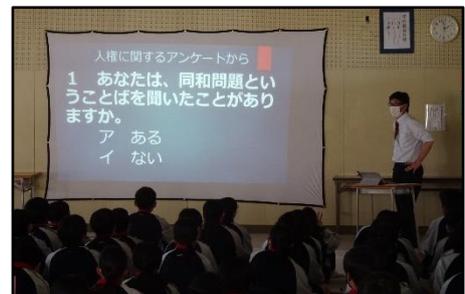
2学年:同和問題(部落差別)の解消

3学年:社会の中にあるさまざまな人権

- ・女性の人権を守ろう
- ・外国人の人権
- ・LGBTQ+に起因する偏見や差別
- ・北朝鮮当局による人権侵害問題
- ・東日本大震災に起因する偏見や差別

○人権週間における人権授業の流れ(2時間連続、一斉授業)

- ・人権について…基本的な人権に関する講義と実践
- ・人権標語または人権メッセージに取り組む
- ・各学年別の取り組み内容の講義と実践、人権に関する全体でのビデオ視聴も可
- ・作文を書く→提出



○人権標語の取組(1年生のみ)

- ・生徒は、この人権週間の時間内で取り組み1作品を担当に提出
- ・担任は、各クラス4点選び、学年人権担当に提出
- ・人権教育部で出品作品決定
- ・生徒の全作品を用紙に書き、廊下に掲示

② 第2回人権週間 ～世界人権デーの取組～

○目的 人権問題を正しく理解し、人権感覚を身に付け、様々な人権課題を解決しようとする生徒の育成

*「世界人権デー」(12/10)に合わせて実施する。

○実施期間 12月2日(月)～12月13日(金) *2週間

○内容

ア. いじめアンケートの実施(生徒指導部)

イ. 道徳の1時間を人権に関する内容で授業を実施する。(各学年で統一)

ウ. 朝読書の時間で以下の内容のどれかを行う。

(各学年で統一)

・「人権作文」の優秀作品を読む。(2～3回)

*タブレットを活用して「中学生作文コンテスト・優秀作品」をネットで読む。



・人権に関するDVDを視聴する。

＊本校にある人権教育ビデオ、「めぐみ」、「クリームパン」、「夏服の少女たち」、入間市「人権啓発ビデオ」(社会教育課)、啓発動画「～ハンセン病と家族の物語～夢でしか帰れなかった故郷」他

エ、「世界人権デー」や人権教育に関するポスター等を各階に掲示(人権担当)

(2) 人権教育講演会「LGBTQ+講演会」

「多様な性ってなんだろう？～互いの違いを受け止めあえる社会を目指して～」

① 目的

性的指向及び性同一性障害(LGBTQ+)を理由とする偏見や差別をなくすため、人権問題の正しい理解と、差別意識の解消をめざし、明るく住みよい社会をつくるために、人権意識の高揚を図る。



② 日時 令和7年1月16日(木)

13:40～14:50

③ 会場 野田中学校体育館

④ 対象 全校生徒

⑤ 講師 安本 光 氏 NPO 法人 Rebit 教育事業部講師

⑥ 担当 市民生活部人権推進課

本校では、3年間連続して「LGBTQ+講演会」を実施している。令和4年度は、(株)G-pit 代表取締役の井上健斗氏、令和5年度は、細田智也氏(本校卒業生、前入間市議会議員)を招聘して、「性的マイノリティ」やそれに対する偏見や差別など実体験を通して、正しい知識を知ることや差別意識の解消など、人権問題を深く考える機会とした。生徒にとっては、将来において「性的マイノリティ」への偏見を持ったり、差別したりしないための学びとなり、教員にとっては、「性的マイノリティ」の生徒の対応について学ぶ機会となった。

(3) hyper-QUテストの活用

本校では、年間2回(1学期中間、2学期末)のQUテストを実施している。QUテストとは、よりよい学校生活と友だちづくりのためのアンケート調査で、やる気のあるクラスをつくるためのアンケート、居心地のよいクラスをつくるためのアンケート、普段(日常)の行動を振り返るためのアンケートなどから、学級満足度や学校生活意欲を尺度として、生徒一人一人の様子を把握することができるものである。

これによって、教員の日常観察や面談による児童生徒理解を補うことができ、生徒や学級の状態の客観的・多面的な理解に活用でき、いじめや不登校、学級の荒れ等の未然防止に役立てている。実際に、日常生活では全く問題の見られない生徒の中に「要支援」の結果が出たことで、その生徒の抱えていた問題に気づくことができた事例があった。

(4) 人権教育研修会「人権感覚育成プログラム」

- ① 目的 人権教育の基本的な考え方と人権感覚を学び、教員の人権に対する意識と指導力の向上を図る
- ② 日時 令和6年8月21日(水) 13:00~14:30
- ③ 場所 野田中学校・会議室
- ④ 講師 前入間市立金子中学校 校長 今泉大二郎 氏
- ⑤ 対象 全教員

本校では、教員の資質向上を目的として、人権教育の研修を夏休みの校内研修に位置づけ、講師を招聘して実施した。人権教育の目標、埼玉県教育委員会が示す「人権感覚育成のための9つの視点」、人権感覚とは何か、など基本的な知識をご講義いただき、実際に演習「あなたの大切なものは？就職編」を通して人権感覚を体感することができた。経験年数の少ない教員は、「初めて人権感覚の研修を受けた、2学期の授業で人権感覚育成プログラムを実践してみたい」という声もありとても有意義な研修となった。



(5) アンケート調査の活用

①「心のアンケート」(年3回)

教育相談部が担当し、二者・三者相談前に、日常生活についてのアンケート調査を行っている。アンケートの内容は、学校生活、家庭での生活、友だちや自分自身の悩みに加え、いじめに関する項目もあり、生徒が生活の中で気になっていることや抱えている悩みなどを質問している。このアンケートを基に、主に担任が二者相談(5月)や三者相談(7月、11月)を通して、生徒に聞き取りを行い、問題の解決を図っている。

第1回 心のアンケート			
年 級 番 氏 名 ()			
<p>新年度を迎えました。新しい学年・クラスでの生活は1ヶ月が経ちましたが、みなさんどうですか? 授業中では、今年度もみんなの個性の中で、意欲から始まることや、ちょっとした配慮など、どんなことでも相談し合っています。気持ちの相談だけでなく、みなさんの相談については、今年度も思いやりを持って対応していきます。その中で、自分自身のことや気になることや悩んでいることなど、自分自身のことや悩んでいることについて、書き込んでください。</p>			
1. 自分自身のことについて			
1	学校のことや生活のことについて悩んでいることがある	はい	いいえ
2	家庭や家族のことについて悩んでいることがある		
3	自分自身のことや悩んでいることについて		
2. 身近な人との関係について		はい	いいえ
1	仲の良い友達や、お世話になっている先生や先生方から話を聞かされる		
2	仲良く話しかけられ、助けられることがある		
3	ゲームやネットなどで話しかけられることがある		
4	その他、悩んでいること		
「はい」と回答した人へ、よからずお話を聞いて、必要に応じて話を聞いてあげたい(誰かから相談してほしい場合は)			
3. 周りの人のことについて(1 目でもあったら「いる」に○をつけてください)			
1. 学校のことや生活のことについて悩んでいる人がいる		はい(ある)	いいえ(ない)
2. 家庭や家族のことや悩んでいる人がいる			
3. 自分自身のことや悩んでいる人がいる			
4. 誰かのことや悩んでいる人がいる(誰かのことや悩んでいる)			
「いる」と回答した人へ、よからずお話を聞いて、必要に応じて話を聞いてあげたい(誰かから相談してほしい場合は)			
3. あなたの今の気持ちや悩んでいること、相談したいことあれば自由に記述してください			

②「いじめアンケート」(年3回)

いじめ防止基本方針に基づき、生徒指導部が担当して毎学期末に生徒にアンケート調査を行っている。QRコードを利用して、生徒はタブレットで回答する。その結果をデータとして学年毎にエクセルにまとめ、生徒指導部や学年の教員が情報を共有する。さらに、問題となる記載があった生徒については、必ず聞き取りを行い、解決のために対応策を検討し実施している。このことにより、いじめの早期発見、早期対応に繋がっている。

(6) 人権コーナーの設置

職員室前の廊下に人権コーナーを設けて、人権教育に関するポスター等を掲示している。教員や生徒、保護者の目に付きやすい場所に人権に関するものを掲示することで人権に対しての意識を高める手助けとなっている。掲示しているものは、悩み相談窓口案内や人権教育啓発ポスター、「差別に立ち向かう」などの世界人権デーに関するもの、優秀な人権作文や人権標語などの生徒の作品を掲示している。なお、人権作文については、個人情報に配慮して掲示している。



(7) いじめ0宣言

生徒会が中心となって「野田中学校・いじめ0宣言」の条文を作成し、全校生徒の人権に対する意識の向上と、いじめゼロを目指して取り組んでいる。昨年度、生徒に条文の言葉を募集して、中央委員会が何度も検討を重ね条文を作成し、それをポスターにして各教室に掲示している。今年度は朝会で、生徒会が作成した条文の内容を説明する動画を上映し、全校生徒で条文を読み上げた。



4 成果と課題

(1) 成果

- 年間2回の人権週間の取組により、生徒や教員の人権に対する意識は高く維持することができている。また、朝読書を活用した人権作文の黙読や動画の視聴、学年統一資料の道徳など取り組みやすい内容なので、負担感が少なく継続しやすい。
- 「心のアンケート」「いじめアンケート」「hyper-QUテスト」と計画的なアンケートの実施により、生徒が多くの機会を通して自分の困り感や悩みを伝えることができるようにしている。また、生徒指導部、教育相談部と色々な分掌の教員が関わることによって、問題の見落としを防ぐことができ、また、対応の仕方や指導も多角的にできるという利点があった。

(2) 課題

- 全校生徒や保護者を対象とした、専門家を招聘した講演会や教員を対象とした研修会は、正しい知識や新たな情報を身につける大切な学ぶ機会であり、今後も継続していくべきと考える。しかし、授業時数や行事の精選等を考えると時間の確保が難しいので、開催の時期や持ち方など工夫が必要である。
- 来年度、西武中学校との統合があり、両校の人権教育の実践方法に多少なりとも相違があることから諸会議等で十分な説明と調整が必要である。また、経験年数が少ない教員へのOJT研修の機会をいかに構築するかが課題である。